

# NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人  
長野都市経営研究所

## Vol.68

### 2023.SEP.

NPO法人 長野都市経営研究所

発行/NPO法人 長野都市経営研究所 〒380-0834 長野市大字鶴賀問御所町1289-1 丸本ビル2F TEL 026-235-7911 FAX 026-235-6166 <https://www.nupri.or.jp> E-mail: [nupri@nupri.or.jp](mailto:nupri@nupri.or.jp)

## NUPRI 定時総会

令和5年6月14日

14時30分～

ホテル国際21にて開催

# 観光振興、事業化推進、地域貢献！ NUPRIの活動を再認識し 飛躍の年へ



去る6月14日、「第29回NUPRI定時総会」が役員・会員あわせ85名の出席により開催されました。

まず始めに、5月に行われた「花遊歩」に引かれて善光寺参り」のビデオを視聴。その後、ご葬儀で欠席された市村次夫理事長の代わりに鷺澤幸一副理事長があいさつに立ちました。続いて、各部会の代表から昨年度の活動報告ならびに今年度の活動方針について発表が行われました。「ここ数年は、新型コロナウイルスの感染拡大により活動自粛や延期を余儀なくされましたが、4月に行われた政府の水際対策の大幅緩和によって各部会の活動も再開されるなど、新たな動きが始まっています。まだまだ様々な課題はありますが、今後への取り組みに明るい話題を提供する発表報告会となりました。

会場を移して行われた公開講演会では、平昌オリンピックで金メダルを獲得した小平奈緒氏の講演を開催。一般の聴衆者170名を含む約230名が耳を傾けました。

続いて行われた懇親会では、多くの会員が参加し、久々の交流を楽しみました。

### 副理事長あいさつ

### 「NUPRIちゃんねる」で 魅力ある活動をアピール



鷺澤幸一副理事長

会員の皆様には、日ごろからNUPRIの活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

実は今日、南県町にある信濃毎日新聞社に用事があって出かけたのですが、5月4日に行われた「花遊歩」に引かれて善光寺参り」の紹介パネルが写真付きで大きく飾られていました。今年で有終の美を飾り、幕を閉じることになったわけですが、メディアからも大変注目を浴びて、我々NUPRIにとっても誇りあるイベントとなりました。先ほど皆様にはビデオをご観覧いた

きましたが、NUPRIホームページにある「NUPRIちゃんねる」にもアップされています。「NUPRIちゃんねる」には、他にも「わいがやサロン」や「公開講演会」等の動画も掲載されていますので、ぜひご覧いただければと思います。

本日の公開講演会は、小平奈緒氏にご登壇いただきます。人気者の小平奈緒氏ということもあってたくさんのご応募があり、半分以上をお断りしなければなりません。この反省を生かして、もっと大きな会場で開催するなど、今後検討していきたいと思っております。今日は、懇親会まで長丁場となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

### 祝電

長野市長 萩原健司様より

NPO法人 長野都市経営研究所の第29回定時総会のご開催を心からお喜び申し上げます。関係各位の並々ならぬご尽力に敬意を表しますとともに、ご参加の皆様方のご健勝、ご活躍をお祈りいたします。



## 部会活動事業報告 令和5年度方針発表

### 産学連携部会

大学との連携で  
会員企業の魅力を発信



掛谷嘉則 理事

令和4年度は長野県立大学との連携企画で小布施町へのツアーを企画しましたが、新型コロナの影響で実施できませんでした。改めて産学連携の意義を考えてみますと、今は人という財産「人財」が非常に不足している現状がございます。長野県立大学の学生さんとお話ししていると、長野で4年間を過ごすなかで、少しずつ長野で働くやりがいを見出し始めていることが感じ取れます。そこで今後は、学生さんとNUPRI会員企業との交流を通じて会員企業の魅力を発信し、興味を持っていただけるような活動を展開していきたいと考えています。具体的には、2カ月に1回ほどの活動ということで長野県立大学と交渉しているところです。

### 「まご」掘れ！長野調査隊

山城散策を秋に開催予定

竜野泰一 調査隊長



3月16日には、権堂界隈で老朽化した空き家をリノベーションし、新しい仕事をしている店を見学する催し「まちなか散歩」を行いました。当会理事の倉石智典さんに企画段階からご協力いただき、案内していただきました。どうもありがとうございます。その内容につきましては、NUPRIのホームページにアップされていますので、ぜひご覧いただければと思います。今年度は、長野周辺の山城の魅力を発信するため、山城の散策を計画したいと考えています。コロナの影響で先送りになっていましたが、通常通り9月から10月頃には開催したいと思っております。

### 「花遊歩」牛に引かれて

善光寺参り

大盛況で花道を飾った「大イベント

鈴木隆治 事務局次長

5月4日に花遊歩を開催しました。牛のさつきちゃんに引かれて、着物姿の女性陣60名がTOiGO広場〜中央通り〜



セントラルスクウェア〜善光寺まで艶やかに練り歩きました。善光寺の山門前で林明晋善光寺

寺務総長より答礼をいただき、大本願にてご垂示と組紐作家の山岸由香里さんによる講演を聞きました。その様子を収めた立派なビデオも完成し、皆様にはここで深く感謝申し上げます。

牛飼いの村山さんが高齢で、今回が最後の催しとなりましたが、岩野事務局長からのご推薦もあり、その思い出などを「わいがやサロン」でお話しさせていただきました。今後とも引き続きよろしく願いいたします。

### 中心市街地活性化部会

様々な企画で事業化を支援

倉石智典 理事



昨年10月から1回のペースで部会を開いています。もんぜんぶら座 活用プロジェクトへの提案・権堂エリア活用プロジェクトへの提案・長野市都市OSプロジェクトへの提案等について話し合いを設け、提案できるように考えています。



また、インバウンド観光の取り込みとして、権堂アーケードに大きな提灯を吊り、観光誘致を図れないかという案が出ています。屋台やマルシェの開催で事業化の支援や学生さん、シニアの方の活躍の場を広げたいという意見もあります。また案件ではありませんが、どういふふうか、様々な企画の支援をしていければいいか、様々な企画を練っていききたいと考えていますので、会員の皆様にもお知恵やお力を貸していただければと思っております。



### ■わいがやサロン活動部会

#### 2012年から通算88回を開催

岩野彰 事務局長



令和4年度は、5回の開催をさせていただきました。これを通算88回となりまして、これも関係者各位のご協力の賜物と感謝申し上げます。

7月11日には、「わいがやサロン特別編」を開催いたします。今回は二部構成ということで、第一部は善光寺と和服をこよなく愛する仕掛け人、鈴木隆治さんのご講演を賜ります。第二部は、企業人であり市民マラソンランナーの星でベルリンや東京、ロンドンなど6大マラソン大会を駆け抜けた鷺澤幸一さんにご講演を賜ります。ぜひ皆様にもご参集いただければと思います。本年も「わいがやサロン」をどうぞよろしくお願いいたします。

### ■新産業創出部会

#### 引き続き農業の事業継承にまい進

竹内伊吉 部会長

りんごの木オーナー制度は、23回目を迎えた長期継続活動で、昨年11月20日の収穫祭には県内外から62名のオーナーの

方々が参加しました。おんびら農園では稲作にも力を入れており、「三水米」の販売も昨年同様に継続して行う予定です。部会の目的として事業継承があるわけですが、これがなかなか進まず、今は土地、総力、農業人、そして鮮度というキーワードで模索を続けながら、課題解決の新しい道を見つけていきたいと考えています。

### ■スポーツ振興活動部会

#### ●AC長野パルセイロ及びレディースチーム支援活動

#### 首位へ巻き返しを！

鷺澤幸一 副理事長



現在は38節のうち12節が終わったところで、首位とは勝ち点差が4でございます。まだまだ連勝すれば首位に立てるところですので、皆様には変わらぬ応援をお願い申し上げます。

レディースは、先週の試合で今シーズンの闘いが終わりました。日本代表がないチームで6位ということは、なかなか健闘したのではないかと思います。来年度からは新しい監督を迎えます。今後AC長野パルセイロのトップチーム・

レディースともに活躍を期待し、応援をしていきます。

#### ●地域野球クラブ

#### 「信越硬式野球クラブ」の応援活動

#### 己に打ち勝ち、勝利を掴み取る！

茂谷浩子 会員

2023年のチームスローガンは、克己心「己に打ち勝ち、勝利を掴み取る」です。今年も長野市代表として都市対抗野球大会、社会人野球日本選手権大会出場をチーム最大の目標とします。就任2年目となる箱山和宏監督のもと、スタッフ、選手26名は長野県企業13社に所属し、社会人野球の精神に基づき、仕事と野球の両立を図りながら、「地域に愛され親しまれる市民球団」を目指していきます。さらに、野球を通じた社会貢献活動の一環として「少年野球教室」等を開催し、青少年の育成、地域スポーツ文化の発展にも取り組んでいきます。

NUPRIとしても「信越硬式野球クラブ」の活躍を期待し、応援をしていきます。

### ■公開講演会開催事業

#### 大きな反響を呼んだ講演会

鈴木隆治 事務局長次長

6月の定時総会及び2月の全体懇談会



において、年2回の「公開講演会」を開き、基本理念でもある地域活性化をテーマにした講師やその時々々の社会情勢等時宜に合った旬の講師をお呼びして、一般の皆様にもお声がけをして開催していきます。本日は小平奈緒さんにご講演いただきましたが、定員100名のところを370名の方にご応募いただきました。大変嬉しいことであり、今後も視野を広く、いろいろな意味でいい講師の方にご講演をいただきたいと思っています。次回以降はまだ決まっておりますが、ぜひご期待ください。



## NUPRI 講演会

## 人とつながる

競技人生から学んだことと

長野へのエール

社会医療法人財団慈泉会相澤病院 小平奈緒氏

定時総会に続き、小平奈緒氏の講演会が一般公開で開催されました。定員100名のところ、実に3倍以上となる370名の方のご応募をいただき、会場を広げて170名まで定員数を拡大。改めてその人気がぶりを知ることとなりました。講演会では、ときには小さな頃の写真やレース中の映像などで競技人生を振り返りながら、「人とつながる」ことの素晴らしさを語っていただきました。小平氏の誠実で穏やかな語り口に会場は温かみのある雰囲気にも包まれ、アスリートとして実績を残してきた体験談にみんなが熱心に聞き入っていました。

オリンピックを目指すきっかけは  
長野冬季オリンピック

皆さん、こんにちは。相澤病院の小平奈緒です。今日は、「人とつながる」というテーマで皆さんに届くと良いなという想いでお話しさせていただきます。今年の3月まで長野市を拠点に競技生活をしていましたので、今日は久しぶりに長野市に帰ってきたという感じです。お陰様で競技を退いて約7カ月が過ぎました。現在は相澤病院に勤務し、母校の信州大学でも教壇に立たせていただいています。

まず、私の原点であり軸にもなっている「知るを愉しむ」ということについてお話しさせていただきます。私は最近、「たのしむ」という漢字を書く時に、この愉しむという漢字を使っています。心を表わす立心偏に、つくりが運ぶという意味がある俞という字を書きます。本当の「たのしさ」って何かなって考えた時に、心を運ぶから愉しい、心が動かされるから愉しいということだと思っています。そこには興味を抱くとか、好奇心を抱くという意味もあるのではないかなと思います。

私がスピートドスケートと出会ったのは3歳の時でした。姉2人が小学校のスケートクラブに入っていて、小さい私を一人で家に置いておくわけにはいかないと両親

## 【小平奈緒氏】プロフィール

茅野市出身。信州大学教育学部卒。中学2年次に全日本ジュニア選手権スプリント総合部門で優勝し、「スーパー中学生」と呼ばれる。高校3年次はインターハイ500m・1000mの2冠。大学インカレ500mで4連覇。大学2年次に全日本距離別選手権の1000mで初優勝しワールドカップデビュー。大学3年次にユニバーシアード1500mで優勝。卒業後は相澤病院に支援を受け、信州大学教育学部を拠点に活動を継続。バンクーバー・ソチ五輪を経験したのち、2014-2016に2年間練習拠点をオランダに移して研鑽を積み、帰国後のシーズンから国内外の500mで2年半負けなしの37連勝を記録（ワールドカップは23連勝）。その間、平昌オリンピックでのスピードスケート日本女子初の金メダル、世界スプリント総合優勝2回などに輝いた。2022年10月、競技生活のラストレースとなった全日本距離別選手権女子500mを8連覇13回目の優勝で有終の美を飾った。昨年11月より母校信州大学の特任教授に就任、現在に至る。

親が奈緒にスケート靴を履かせて氷の上に置いておけば、遠くには行かないだろうというのが始まりでした。両親の思惑は外れて、私は随分遠くまで滑れるようになってしまったわけですが、そうして初めて出場したレースは







保育園の100mでした。誰かに勝ちたいという想いがあつたわけではなく、1位になれば真っ先に好きなお菓子を選べるという、そんなご褒美があつたので頑張つて滑りました。

私の生涯のヴィジョンを決めたのは、小学5年生の時に開催された長野冬季オリンピックです。スケートを始めた頃から「将来はオリンピック選手だね」って言われながら励んできたのですが、それまでオリンピックというものがどういう世界なのか全くイメージできませんでした。テレビで観戦しましたが、ちょうど清水宏保選手が金メダルを獲つて、多くの観客の前で手を振り上げて「俺はやったぞー」って叫んでいる姿を見て、私もいつかこんな空間でスケートを滑ってみたいと思うようになりました。

## 知らないことを知ることに 感動できる力が自分を高める

長野オリンピックで将来のヴィジョンが具体的に became から、スケートを紹介するテレビ番組で清水宏保選手

のコーチが、信州大学でスケートの研究をしている結城匡啓（まさひろ）先生だということを知り、信州大学を目指すきっかけになりました。

結城先生は私たちに自立を促してくれる存在で、多くの学びの仕掛けというものを練習に散りばめてくれました。その一つに「技術討論会」という座学がありました。昨シーズンの滑りの課題を自己分析してチームで共有し、意見を出し合うという練習メニューでしたが、この討論会をきっかけに自分の動作について深く考え、身体についての知識も育つていったように思います。知らないことを知ることに感動できる力が自分を高めてくれると信じて、学びを積み上げることができました。

また、トレーニングと同じくらいに大切にしているのが、食生活です。私は、地元信州の食材で身体を作ってきました。

オリンピックの代表選考会は、長野市のエムウエーブで行われています。食事の準備や食事を摂るタイムミングなど、練習拠点が長野市だったからこそ毎日のルーティンと同じようにレースに臨めました。口から摂り、体に吸収するもので身体が作られる、その考えをもとに今も食生活は大切にしています。

## オランダ留学で学んだこと 身につけたこと

2014年から2年間のオランダに留学したことも大きなターニングポイントになりました。オランダ語の習得では、チームメイトにも協力してもらい、小さなノートにいくつも単語を書いて学びました。単語を3回見聞きしたら覚えるということの中で決めて、およそ半年で日常会話ができるようになりました。ある時、コーチに「明日の練習について、奈緒はどう思う？」と聞かれたことがあります。オランダ語は聞き取れ、理解で

きているのに、返答ができませんでした。コーチには、オランダ語が通じていないと誤解されてしまいましたが、振り返ってみると、私は言われたことは素直にできますが、自分がこうしたいという意見や意志が無かったことに気づかされました。それ以来、自分はどうしたいのか、とことん考え抜く毎日を送るようになりました。もう一つ、レース前に準備をしていると、コーチに「Weisde（主役は誰ですか？）」と聞かれたことがありました。それまで私は自分が主役だと思つてレースに臨んだことはありませんでした。前と同じように誤解されるのはイヤ







だと思い、「[Is de bass] (主役は私です)」と胸を張って答えました。すると不思議なことに、それまで自信を持ってレースに向き合えなかった自分の中に自信が芽生えてきたのです。

次に、私を支えてくれたライバルの存在についてお話しします。2018年の平昌オリンピックです。実は、優勝した500mのレース前夜に、私が何を考えていたのかというと、イ・サンファ選手のことでした。それが、このシーンにつながっていくのですが……。(映像：レース後にイ・サンファ選手に寄り添い、抱擁した姿が流される)

ライバルは敵だと言われることもありますが、ともに高みを目指してきた同志であると私は思っています。

## 被災地から届けられた1000個のりんご。最後のレースで配布

夢にまで見てきた金メダルを獲得しましたが、メダルの色や記録の数字で私という人間が評価されているような違和感があり、苦しんだ時期もありました。でも、自分が考え方を豊かに人生を生きなければならぬ

と、素直な想いが生まれてきたのです。そんな時に2019年の台風19号千曲川豪雨災害が起きました。決壊した千曲川の堤防近くでは、多くのりんご畑が被害に遭い、収穫間近のりんごを廃棄しなければなりません。ニュースで農家のおばあさんが、「私、農業をやめます」と言っている姿を見て、胸がしめつけられました。大好きな信州の風景を取り戻すお手伝いをしたいという気持ちで、私の中に芽生えてきました。

11月から海外遠征があったので、ボランティア申請だけをして、翌年3月にボランティアに参加し、廃棄物の搬出作業などを行いました。

さらに、一人のアスリートとして何ができるだろうかと一生懸命に考えました。いつも応援される立場でしたが、私も誰かを応援する存在になりたいと考え出したのが、りんごのマークを入れたレーシングスーツでした。そのレーシングスーツで滑る姿を見て元気をもらったという長沼地区のおじいさんからは、たくさんのりんごを贈っていただき、交流は今も続いています。

また昨年10月には、エムウェブでのラストレースの際に、被災された農家さんから購入した1000個のりんごと、長沼地区(アップルライン)のりんご農園(直売所)のマップを記載した冊子を作成し、観客の皆さんに配りました。レースを観戦した後、マップを見て、そのままアップルラインまで行き、りんごを購入してくれたというお話を農家の方が嬉しそうに話してくださり、私も心が温まりました。

最後に、私が人生の生き方に行っている「唯一無二の表現」の話をします。北京オリンピックでは、直前の負傷もあり、思うようなレースができませんでした。結果だけ見れば惨敗でしたが、私の中では、成し遂げることができませんでした。自分なりにやり遂げることができたと思います。コロナ禍の中で、挑戦する私の姿に多くの方が自分自身を重ねて温かい言葉をかけていただき

ました。私は、その方々の言葉で挑戦した意味を感じることができました。それが、私なりにできる自己表現なのだということを知りました。

信州に生まれ育って、人生の良さを感じたのもここ信州でした。長野市でも競技人生を支えていただきました。両親からは、「出逢いに恵まれて、今の奈緒があるのよ」とよく言われます。心豊かに、たくさんの人とつながりながら、歩みを続けていきたいと思っています。ご清聴ありがとうございました。

